

無条件の慈愛：すべてのものを結び合わせる光

—臨死体験の光に関する一考察—

齋藤忠資

我々はすでに臨死体験の無条件の光について考察した。¹⁾ここでは前の論文を補う形で、臨死体験の無条件の慈愛の光の特徴についてさらに考察したい。無条件の慈しみの光は臨死体験のコアである。

① 光は慈愛である。物質の光には慈しみはない。従って臨死体験の光は物質の光ではなく、人間の心のかかわる意識の光である。代表的な例をあげよう。

「光そのものは慈愛であった。」²⁾

「光は純粋で真の慈愛を大量に放射していた。」³⁾

「光は慈愛で、命のコアにおける深いものである。」⁴⁾

「光の存在のエッセンスは慈愛、エゴのないことである。」⁵⁾

「純粋の慈愛が、光の世界と存在の最上のものである。」⁶⁾

光そのものは我々が求めている宇宙のコアなのではない。光には物質の光（原爆の光、生命体の光など）もあり、光自体ではなく、慈愛や安らぎや喜びと言った臨死体験の光に備わっている属性が本質なのである。

「光と慈しみは私の経験では一つのものである。」⁷⁾

「この世の光とは全く異質の光には、完全な理解と完全な慈愛があった。」⁸⁾

② 慈しみこそ全てあり、すべてのものの真の本源であり、すべてのものは慈愛を巡っている。典型的な例を引用しよう。

「すべてのものは慈愛であり、慈愛から作られ、慈愛から由来する。」⁹⁾

「すべてのものは慈愛を巡っている。」¹⁰⁾

「慈愛は真に問題になっているすべてである。」¹¹⁾

「この世は全面的に慈愛を巡っている。」¹²⁾

「慈愛はすべてのものの源である。」¹³⁾

「臨死体験で一番大切なことは慈しみであることを学んだ。」¹⁴⁾

「地上で重要とみなされているすべての事は、全くつまらないもので、慈しみのみが重要である。」¹⁵⁾

「キーは慈しみであると死んだ祖母は、私が地上に戻る直前に3度言った。」¹⁶⁾

「慈しみはすべてのものの答えである。」¹⁷⁾

「地上の植物が養分を必要としているように、スピリチュアルな命は、神の慈愛を必要としている。万物は神の慈愛から生まれる。全被造物は愛する能力を持っている。光と

真実と命は皆慈愛の中で作られ、慈愛によって支えられている。神は万物に慈愛を与え、我々は万物に慈愛を与える。こうして万物は成長する。」¹⁸⁾

「それは宇宙の愛であり、愛は宇宙であり、すべてのものの源である。」¹⁹⁾

- ③ 真に存在するものは光の慈愛のみである。物質はすべて消滅してゆく。物質は一時的に存在するだけである。肉体が死んでも、物質界が消滅しても、光の慈愛は時間を超えて存続する。代表的な例をあげよう。

「死後存続するものは、互いの結びつきと無条件の慈愛のみである。」²⁰⁾

「永遠に生きる唯一のものは慈愛である。」²¹⁾

「私は光と一つになった。私の生涯の表面的な部分、つまり私がやり遂げた事や手に入れたものや身につけた知識などは、その瞬間にその光のエネルギーに飲みつくされてしまった。ところが周りの人達に無私の愛や気遣いを私が示した時の行為はたたえられ、虚空の記録に永遠に刻み込まれた。その行為がいかに慎ましやかなものであったとしても、いかに束の間のものであったとしても、その点は全く問題にはならなかった。」²²⁾

「死によって物質はすべて消滅する。ともに持って行ける唯一つのものは、愛のみである。」

「死ぬ時あなたと共にあるのは、愛のみである。」²³⁾

「光は“あなたは決して一人ぼっちではない。私はいつもあなたを愛してきたし、これからもいつも愛する。何が起ころうとも。”と私に言った。」²⁴⁾

従って光の無条件の慈愛こそ真の实在である。

「愛のみが存在する。」²⁵⁾

「慈愛こそ全ての基礎である。利己的でない無条件の慈しみこそ、真のリアリティである。それなしには人間とは何かが分からない。」²⁶⁾

「慈愛は全てである。慈愛は全てに打ち勝つ。究極的には慈愛のみが存在する。」²⁷⁾

「無条件の慈愛は唯一つの真実である。」²⁸⁾

物質の光には無条件の慈愛はない。光そのものではなく、無条件の慈愛こそがすべてのコアである。闇は光が欠けた状態であり、闇自体は存在する实在ではなく、光によってできる影にすぎない。闇は慈愛が欠如した状態である。

- ④ 愛は一人では成立しない。愛とは相手との関係であり、複数のを互いに結び合わせる絆であり、関係のネットワークである。愛は物ではなく、意識の出来事であり、主体として経験できるクオリアである。(安らぎや喜びなどと同様に) 二つの石と二本の木の間には、何の関係も結び付きもない。動物の場合には同じ群れや親子兄弟同士の間には、関係と絆が生まれる。人間になると、家族や恋人や友人や同じ仲間同士の間での関係と絆は、動物以上に緊密なものとなる。これは人間として共通の本性であり、宗教を前提としたものではない。臨死体験の光の世界では、光の無条件の慈愛によって、すべてのものが完全に互いに結び合わされ、分離できない仕方で一つの全体として一体になっている。(万物一体と統合的全体意識) 光の慈愛は時間と空間や物質(肉体)の制約を超え

て、一つに結び付ける。(非局所性) すべての部分(個)は個性を持ちながら、全体として一体になっている。それは完全に調和している音楽に似ている。またそれは文字を結合して、一つの詩にまとめ上げている眼には見えない関係のネットワークに似ている。部分(個)は分節できるが、全体から切り離された部分(個)と言うものは存在しない。光の世界には、部分(個)の間に分離や境界と言うものは存在しない。典型的な例を引用しよう。

「愛は宇宙のすべての分子を結合するエネルギーに似ていた。万物は愛を通して、我々が体験するエネルギーを通して結合している。」²⁹⁾

「そこには愛があった。我々は皆愛によって結合している。愛は命である。宇宙のすべての原子も皆、愛によって結合している。」³⁰⁾

「愛に満ちた光が、この世界の全てを一つに結合している。」³¹⁾

「光の世界では、私は他の光の存在達と一体であり、すべてが一つである。それは完全な慈愛である。」³²⁾

「魂は至高のエネルギーの愛によって結合されている。」³³⁾

「大気圏を上昇し、星々や銀河を見たとき、完全な慈愛を感じた。すべてのものが完全で、安らぎで満ちていた。すべてのものは結合してひとつであった。」³⁴⁾

「光は無条件の慈愛を備え、すべては境界のない一体性をなしている。」³⁵⁾

「霊の無条件の慈愛によって、宇宙の生き物は皆リンクしている。我々を包んでいるのは、一つの霊的存在のスパーク。それは我々の内にもある。」³⁶⁾

「物質、メンタル、感情、霊の区別はなく、光によってすべては一つ、すべての感覚は一つ。私は宇宙と一つになり、万物は一つになる。」³⁷⁾

「我々は皆たがいに結合している。私は万物と結合している。我々は皆無条件に愛されている。」³⁸⁾

「光は慈愛であり、身体のない私は宇宙と一つになった。我々は互いに部分である。」³⁹⁾

「惑星の全ての意識のある存在は、皆愛によって結合している。」⁴⁰⁾

「愛は宇宙の目的であり、我々は皆たがいに結合している。」⁴¹⁾

「我々は皆愛に包まれていて、愛の中で結合している。」⁴²⁾

「宇宙は愛である。我々は皆結合し合っている。我々は互いに助け合うために地上にいる。」⁴³⁾

「我々は皆愛によって結び合わされた部分である。」⁴⁴⁾

「私は全てを包む黄金の光に、すべてを包む愛を感じた。この愛によってすべての人は、兄弟姉妹としてたがいにリンクされている。」⁴⁵⁾

「万物は無条件の愛の持続する開示であり、相互の結合している。」⁴⁶⁾

「過去にあったもの、今あるもの、将来あるものすべてのものは一つである。愛と命は一つである。」⁴⁷⁾

「宇宙の全方向から愛が私に注がれた。」⁴⁸⁾ この例は光の慈愛が空間（方位）から自由であることを示している。

- ⑤ 光の慈愛は受け入れることを意味している。代表的な例をあげよう。「光は無条件の慈愛であり、受け入れることであった。」⁴⁹⁾

「光は無条件の慈愛であり、全面的に受け入れることであった。」⁵⁰⁾

「至高意識の慈愛を感じた。光は絶対の慈愛だと分かった。真の優しさは光からくる。純粹の慈愛と無条件に受け入れることと、大いなる憐れみを受けた。」⁵¹⁾

「測りがたい慈愛と万物の受け入れを感じた。」⁵²⁾

受け入れることは、人間の尺度から見てネガティブなものも含めている。善悪を超えている。悪と判断されることも排除や拒否をしないで、受け入れることを意味している。

「私は絶対的かつ全面的慈愛を学んだ。死を受け入れることを学んだ。死に対する恐れはもはやない。」⁵³⁾ この例は愛には怖れがないことと関係している。

「悪いことが起こるのには目的があり、私は悪いことを受け入れることができる。」⁵⁴⁾

「不完全さと過ちを裁かず、無条件の慈愛を体験し学ぶための機会と見る。」⁵⁵⁾

「すべてのものは無条件の愛と安らぎと喜びと祝福で満たされていた。まさに私と言う存在があるがままの全面的に愛され受け入れられていた。何かをしなければならないというすべての必要性から解放され、罪悪感や自分を裁くことから解放されて。」⁵⁶⁾

「渦の出口には光があり、真の愛で何でも受け入れてもらえる光につつまこまれた。」⁵⁷⁾

- ⑥ 光の慈愛にはいかなる条件も付いていない。それは全くのめぐみでありプレゼントであって、それを受け入れるのに一切条件は付いていない。それはいかなる制約や限定もない測ることの出来ない慈愛と言うことである。(無量寿光) その人がしてきた言行とか、資格があるかとか、善い人間であるかとか、価値があるかとか、美人だからとか、相手の人間に依存しないということである。それに対して人間は自分のエゴの尺度で相手を測って、自分が欲するように相手を判断し、受け入れる価値があるかどうか常に条件を出す。相手の人間によって左右されるのが人間の愛である。典型的な例を引用しよう。

「私になしたことに関係なく、私は愛されていた。その愛を受けるために、何かをする必要などはなかった。」⁵⁸⁾

「それは無条件の慈愛で、私がどのような人間かには関係なく、それを得るために何らかの資格が必要と言うこともない。それは相手によって変わる慈愛ではなく、善行がなされた時の褒美として与えられる愛ではない。」⁵⁹⁾

「それはエッセンスにおいて、純粹な慈愛で、人間の行いや感情に依存して様々に反応することはなく、感情によって左右される愛ではなく、常に変わることなく存在する慈愛である。」⁶⁰⁾

「それはすべての人に対する無条件の慈しみであり、我々の宗教にも、私の言行にも全

く関係がない。それは神からのプレゼントである。」⁶¹⁾

- ⑦ 光の慈愛は、臨死体験者の自己意識のコアを不可分の統合的全体意識の中に受け入れることを意味している。光の無条件の慈愛があるところに、真のホーム(安らぎ)がある。典型的な例を引用しよう。

「光の慈愛のあるところにホームがある。それは地上には見られない。」⁶²⁾

「私は完全に愛され、完全に安らぎの中にあった。」⁶³⁾

「光は生きていて、完全な慈愛を備えていて、完全なホームである。」⁶⁴⁾

「その光のエネルギーは慈愛で満たされた源泉であり、我々の真のホームであり、我々が本来帰属している所である。」⁶⁵⁾

「私は光の中に入れなかったが、もし入ることが許されれば、私は安らぐことができ、慈しみと寛容を全体として経験できると感じた。」⁶⁶⁾

「肉体を超えた時、私の意識は澄んだ白光の全面的な慈愛と寛容を感じた。私は私であると同時にこの白光の一部でもあった。私は光に帰属し、光は私に帰属していた。すべての人を受け入れることを私は学んだ。」⁶⁷⁾

- ⑧ すべての生物が光と食料と水を求めているように、すべての人が自己意識のコアで、光の完全な慈愛と安らぎ(ホーム)と喜びと生きる意味を渴望している。それは人間には光の完全な慈愛や安らぎなどが欠けているからである。光の世界に無条件に受け入れられた時、真の安らぎ(ホーム)を感じるのが、自己意識のコアであり、私と言う存在そのもの(I am)である。自己のコア・私と言う存在そのものは、光の無条件の慈しみのホーム(本源)で初めて完全になり、完全な自己になる。(ハイアー・セルフ) 光の慈愛とやすらぎ(ホーム)を渴望している自己のコアは、脳と肉体の五感と物質を超えている。光の慈しみと安らぎなどは、自己意識のコアのみが感じることができる。代表的な例をあげよう。

「光は無条件の慈愛(受け入れ)、安らぎ(ホーム)、裁きなしの許しなど、地上で求めていたすべてのものを備えていた。」⁶⁸⁾

「すべての人が心の深い所で、光の無条件のエゴ無き純粹のアガペーを渴望している。」⁶⁹⁾

「人間のエッセンスである魂は、愛を渴望している。すべてのゆがみは愛の欠如から生じる。」⁷⁰⁾

「私は完全に慈愛で包まれた。その最も純粹で全面的に無条件の慈愛は、人間の心では理解できない。魂でのみ感じられる。この完全な慈しみが、私の心を直接満たす。それは肉体の愛ではない。」⁷¹⁾

「光は無条件の慈しみを私に注いだ。限りなくかつ完全な慈愛で、私の存在のコアへと溶け込んだ。私の存在の隅々まで、無条件の慈愛が浸透した。」⁷²⁾

- ⑨ 光の慈愛は単なる感情ではなく、創造するエネルギーである。

「無条件の慈愛は感情よりもエネルギーであり、過去と現在と未来のすべてのものの中

にある創造のエネルギーである。」⁷³⁾

光の無条件の慈愛は地上に見られる人間的なロマンチックなエロースではなく、相手の価値によって左右されることのないアガペーである。

「光の慈愛は無条件で純粋なもので、人間にはそのような慈愛は想像できない。」⁷⁴⁾

「慈愛は宇宙の最強の力である。慈愛は個人的な心情でも、ロマンチックな感情でもやさしい気持でもない。慈愛は神聖で生き生きとした、比類なき強さと素晴らしさを持つエネルギーであり、慈しみと真実の存在状態である。それは男女のエロースでも友情でもなく、無条件の慈しみ(アガペー)である。慈愛は聖霊の働きである。」⁷⁵⁾

⑩ 自己意識のコアは慈愛である。このことについては自己意識のコアについての項を参照。

註。

- 1)すべてのものを包む光：無条件の受容、基督教論集 49,2005,235~246
- 2)www.nderf.org/michael-d's-nde.htm
- 3)www.aleroy.com/a near death experience,no211
- 4)Mellen-Thomas Benedict,Through the light and beyond,inL.W.Bailey & J.Yates,The Near-Death Experience,Routledge,1995,43
- 5)D.K.Weiler,Dead is just a four letter word,<http://4herway.com/4letterword/thebook.html>
- 6)www.nderf.org/diana-r-nde.htm
- 7)www.nderf.org/justin-u-nde.htm
- 8)R.A.Moody,Life After Life,Bantum Books,1971,63
- 9)K.Ring,Lesson From The Light,Insight Books,1998,187
- 10)www.nderf.org/tracy-nde.htm
- 11)N.L.Danison,Backwards,APLee 6 Co.,San Diego,2007,95.100
- 12)www.nderf.org/sam-p's-nde.htm
- 13)www.nderf.org/marta-y-nde.htm
- 14)www.nderf.org/augustin's-nde.htm
- 15)www.nderf.org/nancy-c's-nde.htm
- 16)R.Wallace,The Burning Within,Gold Leaf Press,1994,116
- 17)www.nderf.org/karen-vdk-nde.htm
- 18)R.Wallace,Burning,104
- 19)A.F.Ellis,Revelations of Profound Love,Trail of Hope Publishing,2012,59
- 20)A.Moorjani,Dying To Be Me,Hay House,2012,73

- 21) S. Rogers, Lessons From The Light, Warner Books, 1995, 46
- 22) R. アルメダー、死後の命、TBSブリタニカ、1992, 115~116
- 23) 2例とも A.F. Ellis, Revelation, 161
- 24) A.F. Ellis, Revelation, 114
- 25) D.S. Weiler, Dead
- 26) E. Alexander, Proof of Heaven, Simon & Schuster, 2012, 7~72
- 27) www.nderf.org/NDERF/NDEExperiences/jeffrey.o-nde.htm
- 28) www.nderf.org/justin-u-nde.htm
- 29) www.nderf.org/kathy-w-nde.htm
- 30) www.nderf.org/mark-j's-nde.htm
- 31) M. モース、死に行く者たちからのメッセージ、同朋舎出版、1995, 24
- 32) www.iands.org/ndeaccounts/lucid_and_rapid_thinking.html
- 33) www.nderf.org/lynn-m's-nde.htm
- 34) www.nderf.org/mike-i-jr-nde.htm
- 35) www.iands.org/publications/vital-signs/67-vs-25no1-petro.htm^2-shoivell-1
- 36) www.nderf.org/patricia-c-nde.htm
- 37) www.nderf.org/denise-b's-nde.htm
- 38) www.nderf.org/debbie-nde.htm
- 39) www.nderf.org/sue-v's-nde-like-ste.htm
- 40) www.nderf.org/stay-s.-nde.htm
- 41) www.nderf.org/anita-e's-nde-like.htm
- 42) www.nderf.org/jewel-h-nde.htm
- 43) www.nderf.org/anita-e's-nde-like.htm
- 44) www.nderf.org/steve-b's-nde.htm
- 45) L.E. Tooley, I Saw Heaven, Horizon Publishers & Distributers, 1997, 61
- 46) www.nderf.org/beverly-b's-nde-like.htm
- 47) A.F. Ellis, Revelations, 112
- 48) K. Ring, & Valarino, E. E., Im Angesicht des Lichtes, Ariston, 1999, 297~298
- 49) www.nderf.org/justin-u-nde.htm
- 50) www.nderf.org/michael-o-nde.htm
- 51) www.nderf.org/mathilde-n's-nde.htm
- 52) www.nderf.org/jesse-n's-nde.htm
- 53) www.nderf.org/jude-l's-nde.htm
- 54) www.nderf.org/lynn-nde-4972.htm
- 55) A. Moorjani, Dying, 140
- 56) www.NHNE.org/my_nde-reunited_with_the_lion_people.htm

- 57)D.ブリンクリー、光の秘密、ナチュラルスピリット、2013,19
58)www.nderf.org/anita-m's-nde.htm
59)N.Clark,Hear His Voice,PublishAmerica,,2005,69
60)A.Moorjani,Dying,163
61)A.E.Ellis,Revelations,69
62)www.nderf.org/michael-d's-ndes.htm
63)www.nderf.org/shawna-j's-nde.htm
64)www.nderf.org/robert-b's-nde.htm
65)[www.iands.org/ndeaccounts/lucid and rapid thinking.htm](http://www.iands.org/ndeaccounts/lucid_and_rapid_thinking.htm)
66)www.nderf.org/barry-c's-nde.htm
67)www.nderf.org/barbara-s's-nde.htm
68)K.Ring,Lessons,189
69)L.Martin,Searching for home,Cosmic Concepts,1996,125
70)Mellen-Thomas Benedict,43
71)www.nderf.org/bobbi-d-nde.htm
72)N.Clark,Hear,64
73)A.F.Ellis,Revelations,54
74)A.F.Ellis,Revelations,65
75)D.ブリンクリー、光の秘密,111.120

、